

第6章 公認会計士の魅力向上に向けた取組

1. 概説

公認会計士については、監査業界のみならず経済界等の幅広い分野で活躍することが期待されているとの考えに基づき、受験者層の多様化と受験者数の増加を図ることで質の高い人材を多数確保することを目的に、平成15年に法改正され、平成18年から新しい試験制度が導入されたところである。しかしながら、公認会計士試験の合格者数は、新試験制度への移行後、一旦増加したものの、平成20年以降、経済情勢の悪化等を背景として監査業界の採用数が大きく減少し、試験に合格しても就職ができない、いわゆる待機合格者が多数生じた。

その後、監査法人への就職状況が改善し、待機合格者問題については足元沈静化してきている状況にあるが、他方で、公認会計士試験の願書提出者数が減少傾向にあるほか、監査報酬が全体として減少傾向にあるといった新たな課題が生じてきている。

会計・監査は金融・資本市場における重要なインフラであり、会計・監査の専門家である公認会計士については、金融・資本市場における「公共財」として、経済社会の幅広い分野で重要な役割を担うことが求められている。

こうした中、審査会においては、公認会計士の資格の魅力向上を図っていくため、平成25年夏以降、金融庁、協会等の関係者と意見交換を行い、制度改革に限定されない幅広い観点から、実効性ある施策を検討している。

2. 今後の課題

「金融・資本市場活性化有識者会合」が平成25年12月13日に取りまとめた「金融・資本市場活性化に向けての提言」において、「監査の質を向上し、我が国の監査制度に対する国際的な信用を維持・確保する必要がある。そのためには、公認会計士資格の魅力の向上を図ることも肝要である」との提言が盛り込まれたところであり、金融・資本市場における「公共財」である公認会計士の魅力を高め、優秀な人材を確保していくため、金融庁、協会、経済界や市場関係者等と緊密に連携しながら、公認会計士資格の魅力の向上に向けた取組を進めていく必要がある。

(参考)「金融・資本市場活性化に向けての提言」の具体的な提言内容については金融庁ウェブサイト (<http://www.fsa.go.jp/singi/kasseika/20131213.html>) 参照。